

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】(1ユニット)**

事業所番号	2791000108		
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホームみさき西淀川		
所在地	大阪市西淀川区福町1丁目6-9		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	令和2年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和2年9月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

オープンし4年が経ちました。利用者様への支援方針は、開設時より変わらず、笑顔とパワーに満ち溢れた、活気ある暮らしを続けておられます。職員は日々の関わりの中で、利用者様自身の本来持っておられる力が、十分に発揮できるように環境を整え、本人の能力に合わせた役割や希望を把握し、笑顔で生き生きと暮らせるように、サポートしています。新型コロナウイルス感染症の影響から、地域の行事が中止になり、外出等の制限がされ、外部との交流が難しくなりました。現在は、少人数での散歩や草木の手入れ、洗濯干し等の外気に触れる機会を多く取り入れるとともに、利用者様からの希望に沿った調理レクリエーションや、運動、手作業を主に実施しています。困難な状況に負けず、健康で笑顔になれる出来事が、一つでも増える事を願い、事業所として取り組んでいきたいと思っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の理念は「私たちは、利用者様一人ひとりの思いを大切に、できる事を続け、したいことが叶うように、支援していきます。」と単純明解である。リビングルームでは、利用者それぞれが、将棋をする人、トランプをする人、習字をする人がいて、和気あいあいとしている。時には、全員で懐かしのメロディーを合唱したり、笑い声が絶えない。地域との交流も密で、避難訓練や盆踊り等の行事には、欠かさず参加し地域の方々と挨拶するとともに活動している。保育所の運動会にも、利用者として参観し声援を送っている。また、区主催の介護教室には、講師として参加し双方向での協力関係を築いている。コロナ禍の中では、買い物や友人家族等の訪問、馴染みの場所へ行く機会が出来ていないが、電話やスマートフォンのラインによる映像を通しての会話をし、元気な姿を確かめ合っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出退勤時に確認できるように、事業所内に掲示するとともに、会議や研修においても、定期的に確認を行い、常に意識して実践できるようにしている。法人の理念とは別に、事業所独自の理念もあり、管理者、職員は共有して実践できるようにしている。	法人の理念の他に事業所独自の理念「私たちは、利用者様一人ひとりの思いを大切にできる事を続け、したいことが叶うように、支援していきます。」を作り上げ、各ユニットの目につき易い処に掲げている。管理者や職員は、常にその理念を念頭に置き、日々のサービスに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入し、地域一斉の避難訓練や、盆踊り等の行事に参加している。近隣のスーパーや公園に出かけた折には挨拶や会話をし、つながりが深まるようにしている。 新型コロナウイルス感染症の影響があり、直近は地域行事そのものが無くなり、日常的に交流する事が難しくなっている。	事業所は、自治会の一員として地域の行事に参加している。避難訓練や盆踊り等の行事には、欠かさず参加し地域の方々と挨拶するとともに活動している。保育所の運動会にも、利用者と参観し応援、声を掛け合っている。工場に囲まれていて民家の少ない中でも、交流は密接で良く連携が取れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム連絡会の一員として、社会福祉協議会や西淀川区役所の催しや、学習会に参加し、家族向けの介護教室開催時には協力している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度開催し、意見や要望については、サービス向上に活かせるように努めている。本年度に入り、新型コロナウイルス感染症の影響により、会議を中止した月もあり、その際は文書にて報告を実施し、後日意見を求める等を行い、運営に反映できるようにしている。	コロナ感染防止のため、利用者が参加しなかったり文章のみの場合もあったが、隔月に開催している。利用者及び家族、地域包括支援センター、自治会長、事業所職員等が出席して、事業所から身体拘束廃止委員会も含めた報告をもとに、参加者の情報や助言、提案をもらい有意義な双方向の会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	西淀川区の保健福祉課生活支援グループとは毎月のように、連絡をし、生活保護受給者の近況報告や相談を行っている。社会福祉協議会や区役所主催の研修や交流会にも参加し、連携を図っている。	保健福祉課生活支援グループ等の担当窓口へは、月に1度以上は訪問し、提出書類を持参したり事業所でのケアサービスの取り組みについて報告相談するなど、指導を得るようにしている。また、区主催の介護教室には、講師として参加し双方向での協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の掲示や研修を通じ職員の理解を深めている。現在身体拘束の事例は無いが、廃止の会議を、三カ月に一度実施し、運営推進会議の場で報告している。また、職員入職時には、身体拘束廃止の指針を示し、説明している。防犯上の理由から、玄関の施錠は了承を得て行っているが、希望時には解錠している。	身体拘束廃止委員会を3カ月に一度開催している。身体拘束廃止のための指針を整備し、職員に充分理解させると同時に、研修会も年に2回行い、安全を確保しながら自由な暮らしを支える工夫について学習している。事業所が工場に囲まれていて、大型車両の往来が多く、危険なため玄関は施錠されているが、内部は自由に行き来でき閉塞感はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じ、職員の理解を深めている。身体拘束と併せて、定例の会議を持ち、不適切ケアについての理解、防止に努めている。また、自己チェックシートやアンケートの実施をして、虐待と思われる場合の早期発見、防止を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し、職員が学ぶ機会を設け、理解を深めている。成年後見人制度、安心サポート、見守りサポート制度の利用を支援し、現在利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、法人本部やケアマネージャーなど、管理者以外にも必ず同席し、説明、及び疑問に答えられる体制を作っている。締結、改定時には文書を交付し、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪の際、全職員は明るい挨拶とゆったりした対応で、話しやすい環境を意識し、家族の思いを、聞き取るようにしている。管理者やケアマネージャーは、手紙や電話のやりとりを行い、定期的に意見や要望を聞き、運営に反映できるようにしている。	利用者とは日々の会話を通して、利用者家族とは運営推進会議や来訪の際、また、アンケートを通して、表せる機会を設けている。出された意見は、訪問マッサージの要望について、車椅子利用者の運動方法について、など、可能な限り運営に反映させるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には、定例の会議の他に、年二回の面談、アンケートを行い、意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は職員が話しやすい環境を心掛けている。また法人本部に職員相談窓口を設置し、相談できるようにしている。法人本部から月一回の訪問があり、職員と直接話す機会を設けている。	職員会議を月に一度、定期的に行っている。ケアに関する事、業務に関する事、時にはハードに関する事等、職員の意見をよく聞き運営に反映させている。管理者、担当職員の連携が非常に良くとれている。個人面談も年に二度行い、職員の意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況については、管理者より法人本部に定期的に報告し、査定評価等に反映させるとともに、職員自身のアンケートや自己評価を実施している。管理者は本部と定期的に話す機会が設けられ、職員は不定期ではあるが面談を、実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には、入職時の研修、及び毎月の施設内研修、本部での研修を実施するとともに、自己チェックシートにて、振り返りの機会を設け、目標を持って働けるようにしている。外部研修の受講案内の他、資格取得の支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域の連絡会や講習を通じ、交流を図っている。連絡会の会議開催場所は、各事業所の持ち回りで、相互訪問の機会を作っている。職員は関連施設内ではあるが、交流を持ち、研修や情報交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、管理者、ケアマネージャーはアセスメントを、しっかりと行うように努めている。入居後は職員も含め、日常の会話や様子などを記録し、情報を共有し、安心できる関係が築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、訪問や面談を通じ、家族の要望や不安等、詳細に聞き取りを行うようにしている。入居後も定期的に連絡を行い、質問や要望には速やかに対応し、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前に聞き取りを行い、他サービスの利用も含めた希望を取り入れ、実施できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、清掃、洗濯等の日常の家事は共に行い、趣味や得意な事については、利用者から学ぶ事も多いと、職員は感じている。経験豊富な人生の先輩として、アドバイスを受ける事もあり、良好な関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者、ケアマネージャーを中心に職員は、密に連絡を取り、共に支える事ができるようにしている。遠方に住んでいたたり、訪問の少ない家族には、電話や手紙にて、利用者の日々の暮らしを伝えるとともに、支援方法についても話し合い、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や買物等、外出の機会を通じ、馴染みの場所に行く機会を作っている。友人の訪問、美容院、かかりつけ医など、これまでの関係が継続できるように努めている。新型コロナウイルス感染症による、面会の制限時では、馴染みの方との関係が途切れないように、事業所の電話を利用し、直接話しが出来るように支援している。	事業所の職員は、本人家族等の会話や生活歴などから地域との係わりを良く理解し支援してきた。しかし、コロナ禍の中では、買い物や友人家族等の訪問、馴染みの場所へ行く機会が出来ていないが、電話やスマートフォンのラインによる映像を通しての会話をして、元気な姿を確かめ合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は、リビングで過ごす事が多く、孤立しているような様子は、見受けられない。体調を崩したり、入院したりで、姿が見えない方がいると、心配する声もあり、良い関係が築けている。ユニット間の交流もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先の医療機関には面会へ行き、家族へは、電話連絡等で、現在の様子や悩みなど、可能な範囲で聞くようにし、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネージャーを中心に職員は、じっくりと話しができる関係を築き、希望や要望など把握できるように努めている。日常の会話や行動の記録、家族への聞き取り、生活歴などを参考に、利用者本位の支援が出来るように努めている。	普段利用者と生活していく中で、生活歴を参考にしながら暮らし方の希望を出来るだけ聞き出し、書きとめ全員が共有するようにしている。「マッサージをして少しでも動ける用になりたい」「自由に歩けるようになりたい」の思いを持っている利用者には、生活リハビリの一環として、外出を中心とした歩行訓練を多く取り入れたりケアプランにマッサージを採り入れるなど、可能な限り要望に添うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、面談や訪問を行い、本人、家族、現在担当のケアマネージャーや相談員、馴染みの方に十分聞き取りを行い、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を充実させ、詳細に残すとともに、ケアカンファレンスの開催等により、職員全員が共有できるように努めている。普段の何気ない言葉や様子から、本人のできる事、したい事などの思いを、把握するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、本人、家族への聞き取りを行うとともに、プラン作成時には担当者会議を開催し、それぞれの意見を取り入れるように努めている。医師、看護師、マッサージ師とも協力し計画に反映している。	介護計画の目標期間は一応長期目標を6ヶ月短期目標を3か月としているが、日々の生活の中で変化が起きた時、利用や家族等からマッサージをして欲しいとか車椅子でも少しでも運動がしたい等の希望が出た時には、担当者会議で支援経過や本人・家族の要望をもとに話し合い、臨機応変に見直しをするようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りを利用して、情報の共有を行っている。その他、管理者やケアマネージャーが中心となり、随時職員への聞き取りも行い、モニタリングの実施、介護計画の見直しに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のニーズに対応し、必要なサービスの提案、検討を行っている。対応が難しい場合は、代替案を提示している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	友人や馴染みの美容院、近隣のスーパー、見守りサポーター、地域行事など、今までの関係が途切れないように支援している。本年度に入り、新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な制限があるが、感染防止に努めながら、楽しく暮らす事ができるように、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や、家族の希望により、今までのかかりつけ医を利用している方もいる。眼科、耳鼻科、整形外科、今までのかかりつけ医などの受診には、柔軟に対応し、職員が付き添う事もある。	入居契約時に、利用者本人や家族等の希望するかかりつけ医を決めている。内科は話し合いの上、ほとんどの方が契約医を、かかりつけ医としているが、従来のかかりつけ医を利用している方もいる。その他の診療については、従来のかかりつけ医を利用している利用者もいる。受診支援には管理者、またはケアマネージャーが同行し、事業所での利用者の様子を医師に報告するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師の訪問があり、ケース記録や医療申し送りノートを活用し、報告や相談をしている。気になる事がある時や急変時には、24時間体制で連絡がとれるシステムになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には付き添い、介護サマリーや口頭で情報を伝えている。入院時には面会や家族との連絡を密にし、病状の把握や相談ができるように努めている。家族と共にムンテラに参加したり、主治医や相談員との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、十分な説明を行い、同意を得ている。医師が重度化したと、判断した場合は、改めて話し合いを行い、対応を決め同意を得るようにしている。重度化や終末期の支援について、医師、看護師、関係機関の助言を受け、家族と十分に話し合い、退院後の受け入れを行った事例がある。	重度化した場合や終末期のむかえ方について、入居時に事業所として出来得る事、出来ない事を事業所の指針を通して家族等に充分説明し確認書を交わしている。重度化した場合は、その都度、家族等と話し合い再度確認書を取り交わしている。看取り体制は出来ているが、看取り経験はまだない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時の研修と定期的な研修を実施している。急変時や、事故発生時に、気になる点があれば、その都度、指導や研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練に加え、地域の訓練にも参加し、災害発生時にはマニュアルに沿って、速やかに避難できるようにしている。法人本部に災害対策本部を設置し、避難計画作成や必要物品の準備、点検を行っている。高度利用緊急地震速報機の設置やライフジャケット、防災頭巾の準備を整えている。	災害時における避難訓練や消火訓練を利用者と共に年に2回、地震や津波、火災などを想定して行っている。災害に備えた備蓄備品も整えられている。しかし、夜間を想定した避難訓練を、前自治会長時は共に行ってきたが、現自治会長は在職中のため行っていない。地域の方々との夜間の協力体制に少し不安がある。	職員が利用者を安全な処まで誘導した後の見守りを、近隣の方をお願いする事を企画し、避難訓練を折に触れて行うなど、いざという時に混乱しないような役割分担が望まれる。特に夜勤者の参加を強く望む。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や人権の研修を実施するとともに、職員間でも注意しあえる関係作りに努めている。アンケートやチェックシートを通じて、職員が自己を振り返る機会を作っている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、排泄介助等については目立たずさりげない言葉掛けや介助が見られる。個人ファイルは、事務所の書庫に厳重に施錠して保管されている。研修会は、プライバシーの保護、接遇などについて年に2回、7月、10月と定期的実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と一緒に話す機会を多く取り入れ、思いや希望を伝える事のできる関係づくりに努めている。日常の衣服、おやつ、飲料、食事など選択できるように働きかけたり、行事や外出など、希望を取り入れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはあるが、希望に応じ柔軟に対応している。散歩、買い物、入浴など、一人ひとりの希望に沿って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や化粧品など、利用者と共に掛付け、購入できるように対応している。モーニングケア時や入浴時なども洋服を一緒に選んだり、身支度を整えたり、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力に応じ、調理・配膳・片付けなど日々一緒に行っている。朝食や行事食、おやつなど、希望を取り入れ、買い物から調理まで、楽しんで行えるように努めている。	食材業者の食材を、各ユニットにある厨房で職員が調理している。今はコロナ禍のため実施出来ないが、利用者の誕生会や行事食、また週に1、2度は、料理レクリエーションとして利用者の意見や好みを聞き、利用者と共に買い物にも行き献立を決めている。同じテーブルを囲んで楽しく食事をする、家庭的な団欒の風景が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量は、その都度記録し、変化があれば医師、看護師に報告、相談し、指示を仰いでいる。摂取量の減少時には形状の変更や、好みのもを取り入れる等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の清潔や治療は、週一回の歯科の訪問があり、その際に相談や指導を仰ぎ、清潔の保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導だけでなく、一人ひとりのペースに合わせた支援を実施している。記録を行い、排泄間隔の空いている方へ、声掛けや誘導を行ったり、失禁があっても安易に紙パンツやおむつを利用しない、等の支援を行っている。	利用者1人ひとりのサインを職員は把握し、さりげなくトイレ誘導をしている。日中は、リハビリパンツを布パンツにパッドで過ごすように排泄支援をするなど、それぞれについて改善方法を考え、一人ひとりに合った支援がされている。夜間は1時間毎に巡回し、安全確認をしながら安眠を重視した支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分摂取、運動、腹部のマッサージなど、薬だけに頼らないようにし、便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴スケジュールはあるが、柔軟に対応し、曜日、時間、回数など本人の希望を取り入れている。 入浴剤の利用やゆず湯など楽しめるようにしている。	基本的に入浴は、週2～3回の月水金、火木土と分け、一人ひとり、湯は入れ替えている。利用者の内、半数以上の方が3回入浴している。本人の希望を聞き、入浴剤を使用したり、ゆず湯やしょうぶ湯を楽しむこともある。入浴拒否の利用者には、職員を替えたり時間を替えるなどして気分が乗った時を見て、優先的に入浴介助を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人希望時や疲れが見受けられる時には、居室で自由に休息がとれるようにしている。夜間の不眠時にはスタッフとゆっくりと過ごし、不安が軽減するように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は職員が確認できるようにファイルしている。薬の増減や変更については、朝夕の申し送りに加え、医療申し送りノートを活用し職員が把握できるようにしている。医師、看護師、薬剤師に訪問時や電話にて、相談できる環境がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者と共に買い物に出掛け、希望する物を購入できるように対応している。朝や入浴時には服を一緒に選ぶ等、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。家事や趣味などの得意な事の継続、やってみたい事への取り組み等、役割を持ち過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物、以前住んでいた家や近所の町に出かけるなど、本人の希望に応じた個別の対応をしている。新型コロナウイルス感染症の影響で、行動の制限もあるが、感染予防を徹底し、できる限りの外出支援を行っている。	コロナ禍のため、買い物や喫茶店など、人と接する処は避けているので、活動範囲は限られてくる。事業所の周りを体力に応じて散歩するようにしている。玄関先にあるプランターや植え込みへの水やりなども日課にして、出来るだけ外気に触れる機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが、本人で管理している利用者もいる。事業所の買い物や、立替払いになるが、個人の物品購入の精算時には、利用者の手から支払いをお願いする事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯の普及により、持っている利用者もあり、制限はしていない。希望があれば、事業所の電話を使用できるようにしている。電話や手紙、宅配便の取次ぎもしている。新型コロナウイルス感染症の影響による、面会制限時には、事業所の電話を使用し、直接話す事ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはくつろげる空間であるように、意識している。利用者と共に制作した物や、歌など季節に応じた飾りを、壁に掲示している。	明るく広い居間兼食堂では、利用者の作品や職員と一緒に作ったコスモスの花など季節を表した作品が展示されていて、季節感、生活感が味わうことができる。ここでは、利用者それぞれが思い思いに、トランプや将棋になど趣味の世界に興じている。皆で馴染みの曲を楽しく合唱したりもしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事業所内の行き来や、居場所の制限はしていない。互いの居室を訪問したり、ソファの利用や座席の移動など、自由に過ごせるような環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には思入れのある物や、使い慣れた物など、自由に持参できる事を伝えている。個人差はあるが、本人の希望する居室になっている。	それぞれの居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、家具や応接セット、ベッドの配置には本人や家族が考えるなど、本人の生活習慣がそのまま継続し、居心地よく過ごせるための工夫が見られる。書道や絵画など自身の作品を掲示している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの位置など、わかりやすいように工夫している。職員が気付いた事は、情報として共有し、統一した支援を行い、混乱がないように努めている。		